

さくらそうはもともと野草で、趣味として楽しむ草花だから、どのように育ててもかまわない。庭一杯に増やすのもよし、大鉢やプランターでにあふれるように咲かせても良い。山草のように小鉢で楚々として咲くものも風情がある。

さくらそうの愛好家には多くの品種を集めて、一鉢ずつに植えて、陳列するという伝統的な鑑賞法もある。鉢植えの基本は5号鉢に4から5芽植で、植えこんだ数が同じ高さにそろって咲くことを目標とする。葉は伸びすぎず、明るい緑色が美しく、花茎は葉より上にそろい、それぞれ多くの花が付き、上品な姿にまとめれば最上のできばえといえる。

愛情をこめて育てれば十分な出来でなくても可愛い自分の花が咲いてくれる。一鳥居恒夫氏による一河崎昌夫さんの庭 桜草鉢に植えて栽培しています なかなか格好がいいね 手前は北斗星



初日の出



美女の舞



小紋

鈴木 毎日桜守を楽しんでいます。増し土の作業が大変です。



百千鳥



野生種